

議 事 録

会 議 名	第 5 3 回 宇都宮市環境審議会 議事録
開催日時	令和 8 年 1 月 2 6 日 (月) 午前 1 0 時 0 0 分 ～ 午前 1 1 時 5 0 分
開催場所	宇都宮市役所 本庁舎 1 4 階 1 4 A 会議室
出席委員	大久保順也委員, 小倉久美委員, 岩井潤子委員, 横尾昇剛委員 (会長), 佐野和美委員, 高梨弘幸委員, 福田治久委員, 町田全功委員, 増渕弘子委員 (副会長), 小林紀夫委員, 小金澤頼子委員, 大森幹夫委員, 稲垣広己委員, 齊藤好広委員, 中島光委員
欠席委員	菅原一浩委員, 森嶋佳織委員, 北浦さおり委員, 田代昌継委員, 半田光隆委員
事務局 出席者	環境部長, 環境部次長, 環境部副参事, 環境創造課長, カーボンニュートラル推進室長, 環境保全課長, 廃棄物政策課長, ごみ減量課長, 廃棄物施設課長, 環境創造課長補佐, 環境保全課長補佐, 環境創造課職員 5 名, カーボンニュートラル推進室職員 1 名, 環境保全課職員 2 名, 廃棄物政策課職員 3 名
公開・非公開	公開
傍聴者・記者	傍聴者 0 名, 記者 0 名
会議概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長・副会長の選出 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・第 4 次宇都宮市環境基本計画の素案について ・第 2 次うつのみや生きものつながりプランの素案について 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡 5 閉会

発言要旨

委員

【第 4 次宇都宮市環境基本計画の素案について】

P13 の基本施策の主な事業に「プラスチック製品の分別徹底の推進」についての記載があるが, 具体的にどのように取り組むのか。

事務局

現在の取組として, ペットボトルのラベルなどを資源として回収・再資源化を徹底しているところであり, 今後, おもちゃやハンガー, 洗面用具などのプラスチック製品についても, 新たに資源化の対象とすることを検討している。

会長	<p>P12 のまちのイメージ図では、環境配慮行動の効果についてイラストやセリフを用いて具体的に表現されており、市民にとって親しみやすいものになったと思う。</p> <p>一つの環境配慮行動が複数の効果をもたらすような記載をすることで、市民の理解や共感をより一層深める図になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>P11 に「ライトラインやE Vバスなどの公共交通が充実し、渋滞も少なく便利に外出ができ、環境にもやさしい。」とあるが、渋滞緩和の観点から市民に公共交通の利用を促しても実感しにくい面がある。市の取組の中で公共交通機関が自家用車よりも優先されるための具体的な施策等は想定しているのか。</p>
事務局	<p>本市では、誰もが自由に移動できるまちへの実現に向けて、J R宇都宮駅から東部地域に向けてライトラインを整備し、あわせてI Cカードの導入や割引制度の実施など、公共交通の利便性向上にも取り組んでいる。本市が目指す「スーパースマートシティ」の実現に向け、移動の利便性、デジタル技術の向上、脱炭素の取組を進めていく。</p>
委員	<p>P12 のまちのイメージ図について、非常に分かりやすい内容であると思うが、図中の⑦「みんなで温暖化対策をしてきたから、猛暑日や大雨の日が減って、安心して暮らせるようになったね。」という表現については、温暖化対策と気象現象との因果関係を直接的に結び付けており、根拠の説明が難しい。内容を過度に難しくする必要はないが、外部から指摘を受けにくい内容にしておくことが望ましいと考える。⑦の項目に限らず、赤字で示されている他の表現についても、同様の観点から見直しを行ってほしい。</p>
事務局	<p>今回のご意見を踏まえて、さらに市民が共感しやすい内容となるよう、表現を見直す。</p>
委員	<p>P13 の「中小企業におけるエネルギー対策の促進支援」について、これまでも中小企業対策、省エネ対策や設備投資支援等を実施してきたと思うが、「新規」に位置付けた意図を具体的な内容を含めて確認したい。</p>
事務局	<p>現在、本市では中小企業に対する環境面での支援として、SBT 認定取得の支援を実施している。今後、より一層促進の促進に向け、補助率の引き上げなども含めた支援強化について検討を進めるため、「新規」とした。</p>
委員	<p>P9 から P10 にかけて、各目標の指標が掲載されているが、令和 12 年度に向けた目標の達成に向けて、単年度ごとの目標値を設定したほうが良いと考える。</p>
事務局	<p>毎年 3 月に開催する審議会において、単年度ごとの目標値と実績値、進捗状況を報告させていただき、その結果を公表しているところである。</p>
委員	<p>P14 の「河川・地下水の水質監視」について、PFOS, PFOA が該当すると思うが、これらの現状と今後の計画を確認したい。</p>

事務局	<p>令和8年1月から、地下水指針値超過の原因特定調査を開始する予定である。監視対象については、PFOS・PFOAに限定せず、河川・地下水の化学物質について、引き続き監視を実施する。</p>
委員	<p>本計画と第6次宇都宮市総合計画の関係性やそれぞれの改定時期について教えてほしい。</p> <p>また、P13の「食品ロス発生抑制の推進」について、食べ物の持ち帰りは、保健所との連携が重要と考えるが、どのように考えているのか。</p>
事務局	<p>P4の本計画と他の計画の相関図のとおり、市の最上位計画に位置する第6次宇都宮市総合計画のもと、国や県の掲げる環境基本計画の状況を踏まえながら、本計画の策定を進めている。令和9年度に第7次総合計画を策定する際には、本計画の目標や未来都市の考え方を踏まえて策定することになる。</p> <p>次に、「食品ロス発生抑制の推進」について、ご発言のとおり保健所との連携が必要であり、飲食店向けの指導や、消費者向けの食中毒防止のチラシ配布等での対応を検討している。</p>
委員	<p>P10の目標指標のひとつにある『「うつのみや生きものつながり活性化事業」の活動参加者数(年)』の設定の考え方に「意識醸成や行動変容の拡大の状況が把握できる指標であるため」とあるが、活動参加数の増加だけで行動変容を押し量るのは困難であるが、どのように評価するのか。</p>
事務局	<p>「うつのみや生きものつながり活性化事業」は、市民団体と事業者をマッチングし、保全活動を実施してもらう仕組みであり、実際に行動に移した人数をカウントできるため、この指標で行動変容を評価できると考えている。</p>
会長	<p>P12のまちのイメージ図について、観音像の左側に太陽光パネルがある。大谷地域には景観形成重点地区もあるため、記載については検討していただきたい。</p>
委員	<p>P11に「②LRTや電動バス等を軸とした公共交通ネットワークの形成により、徒歩や自転車で安全で快適に移動できる生活」とあるが、ライトラインの駅などに掲示板を設置し、脱炭素の進捗が可視化されるとよいと思う。</p>
事務局	<p>ライトラインがゼロカーボントランスポートであることを、広く周知する必要があるという指摘は多く、様々な策を用いて周知したいところであるが、現時点では駅の掲示板等での表示は行われておらず、今後検討させていただく。</p>
会長	<p>脱炭素の可視化は魅力的であり、推進すべきである。</p> <p>佐賀を訪れた際には、街中を走るバスに、市の取り組みがわかるような情報が、バスの外装に大きく表示されていた。様々な媒体を活用して宇都宮の環境の取り組みを発信できれば、さらに削減効果が高まり、ひいてはまちの魅力の向上にもつながる。</p>
委員	<p>P12の図を見て、ビルに屋上緑化や壁面緑化があるなど、自分の関心がある部分には目が行くが、関心がない部分については、どのような意味があるのか正確に読み取れない。解説文章などを作成していただくと良い。</p>

事務局	P12 の図に解説の文章，用語を記述すると分かりづらくなるため，加える際には，別の資料として取り入れるものとする。
委員	「市民における「みやエコ・アクション・ポイント」等の配慮行動の実践促進」の部分で，市民の自発性が重要になるが，行動変容の入口を作るのは難しい。みやエコ・アクション・ポイントを IC カードと連携し，日常生活の中で自然にポイントが貯まる仕組みがあれば，環境行動への入口がスムーズになるほか，手軽に環境行動に取り組むことができると考える。
事務局	委員のご発言のとおり，市民に対して環境配慮行動の重要性については理解してもらえが，その先の行動促進が難しい。そのため，みやエコ・アクション・ポイントは重要な取組のひとつであり，利用者は増加しているものの，十分ではない。さまざまな事業に多くの人に参加し，やってよかったと思える仕組みを作ることが効果的であり，今後のアイデアとして検討していきたい。
委員	所定の場所にごみを捨てる様子などが明確に示されていれば，ポイ捨ての抑止にもつながると考える。P12 のイメージ図にごみ箱に捨てる様子を入れてほしい。
事務局	ごみに関する項目としては③が該当部分になる。イラストの加筆については検討する。
委員	P7 の 3 つの視点のうち，「まちの育み」という言葉に違和感がある。「まちづくり」であれば違和感はないが，「まちの育み」は聞き慣れていないため，理解しにくい。
事務局	より暮らしに密着した暖かな表現として「育み」という表現を採用している。
会長	「まちの育み」という新しい表現は，新しく良い表現であると感じた。育みには，みんなで育てるという意味が含まれており，宇都宮の子どもをみんなで育てるといった考えも含まれるため，新しい表現の一步としても評価できる。中身についても，市民が関わりながら進められる観点があると更によいと思う。
委員	個人的には文章を読むより，P12 のイメージ図が最も分かりやすい。これも可視化の一例だと感じている。
委員	<p>【第 2 次 うつのみや生きものつながりプランの素案について】</p> <p>一過性のイベント参加によって行動変容と言ってしまうのは，やはり疑問である。複数回の参加者や，家族や友人への勧誘などは行動変容として評価できるものだと考える。こうした視点を評価に取り入れることは可能か。</p>
事務局	そのようなデータを取ることは難しく，本プランでは資料に記載の指標を使用するものとする。しかし，ご発言いただいた情報も重要なことから，今後の計画の運用の中で念頭に置くものとする。

会長	事務局の発言にもあったが、計画の運用の中では、この環境行動変容促進について念頭においてほしい。今後、宇都宮ならではのやり方で展開してほしい。
委員	別紙2の概要版に「学校における意識の醸成」とあるが、岡本西小学校では日頃から川の観察を行っている。各学校でも同様の取り組みが行えるよう、今後、環境への取組を周知する予定はあるのか。
事務局	各学校において、各々、環境学習を行っているが、好事例の周知などを検討する。
委員	自然共生サイトに掲載されている企業のうち、多くは大企業である。市内の事業者に対しても同様の取組を期待していくのか。
事務局	ご発言のとおり、現在認定されているものは、大企業の管理地等が中心となっているが、市民団体や自治体の管理地等も含まれている。 本市としては、まず広く制度の周知を行い、ふさわしい活動団体に対して、認定の働きかけや手続きの支援を行うことを考えている。また、自治体が申請している事例もあるため、市が所有する土地の中で認定を受けられる場所があるか確認していきたい。
委員	P23の自然共生サイトの目標値について、認定箇所数が「令和12年までに1箇所以上」とあるが、この目標値は妥当であるのか。6年かけて1箇所というのは少ないように感じる。
事務局	申請前に自然環境調査などの事前準備が必要であり、申請期間も考慮すると数年を要することが見込まれる。そのため、まず「1件以上」を目標として設定している。
委員	令和12年までに数箇所が認定される可能性もあるものと理解した。また、別紙2に記載されている「後期プランの評価」については、令和7年度の目標値を100%と設定した上で、別冊2には単年度ごとの目標値が示されており、進捗が非常に分かりやすいと感じた。 一方で、「成果指標の評価」の項目において、令和2年度の実績値が33.6%、令和6年度の実績値が37.6%に留まっているなか、令和7年度に75%を達成するという目標は、かなり厳しい数値設定ではないかと感じている。目標設定の見解を伺いたい。
事務局	ご指摘の点について、最終的な目標値である75%という数値はハードルの高い設定であるが、新たにネイチャーポジティブの視点も取り入れながら、周知啓発の取組を一層強化していくことが重要であることから、次期プランにおいても、現行プランと同様に認知度75%を目標値として据え置くこととしている。
会長	公表するにあたって、高い目標値のみが記載されていると、意図が分かりにくくなるおそれがあるため、何らかの形で補足的な説明を記載することを検討していただきたい。

委員 第4次宇都宮市環境基本計画及び第2次うつのみや生きものつながりプランのいずれにもイメージ図が掲載されており、宇都宮市の環境の将来像を示すものとして、とても分かりやすいが、このようなイメージ図については、分かりやすさを重視して掲載しているものなのか、あるいは必ず掲載しなければならないものなのかを確認したい。

事務局 宇都宮市が将来どのようなまちを目指しているのか、市民に分かってもらうことが何よりも大切であると考えており、イラストや平易な言葉を用いて示している。

委員 様々な計画のイメージ図を見てきたなかで、現在ではライトラインが多く、この第2次うつのみや生きものつながりプランについても、当然ながら生きものが多く掲載されているが、宇都宮ならではの観光やスポーツなどの要素も、可能であれば図に入れてもよいと思う。

なお、P25のプランの図に描かれているアメリカザリガニは特定外来生物だと思うが、意図的に掲載しているのか。

事務局 アメリカザリガニの絵については、掲載の是非を含めて検討する。

会長 市の各政策をわかりやすく市民に訴えていくうえで、ビジュアル化は効果的である。

【策定スケジュールについて】

会長 事務局から説明のあったとおり、次回の審議会は2月下旬頃を予定しており、内容はパブリックコメントの結果と答申書案となる。書面開催とし、皆様からのご意見を事務局にて修正後、最終的な確認については会長に一任とのこと。また、市長への答申書手交式についても、日程調整の上、会長と副会長で行うとのことであるが、このように進めてよろしいか。

委員一同 異議なし

【その他】

事務局 本日の議事録につきましては、事務局で作成したものを皆様に確認依頼させていただきます。